

後期計画の策定に向けた地域検討会議（第1回盛岡ブロック②）会議録 【盛岡ブロック②：盛岡市、雫石町、葛巻町、矢巾町】

○ 日 時：平成31年1月28日（月）10時00分～12時00分

○ 場 所：岩手県公会堂 2階21号室

○ 出席者

① 会議構成員

盛岡市関係者（資料「出席者名簿」のとおり）

雫石町関係者（資料「出席者名簿」のとおり）

葛巻市関係者（資料「出席者名簿」のとおり）

矢巾町関係者（資料「出席者名簿」のとおり）

② 事務局（県教育委員会）

盛岡教育事務所（資料「出席者名簿」のとおり）

県教育委員会事務局（資料「出席者名簿」のとおり）

○ 傍聴者：一般4人、報道3人

○ 会議の概要

◆ 議題及び報告事項

(1) 本県の高等学校教育の現状について

【県教委】

- ・ 本県の高等学校教育の現状について、事務局から説明をお願いします。

【県教委】

- ・ 資料No. 1「岩手県における中学校卒業生数及び高校入学生数の推移」、資料No. 2「再編計画策定に係る取組及び「後期計画」検討スケジュール」、資料No. 3-1「新たな県立高等学校再編計画の概要」、資料No. 3-2「新たな県立高等学校再編計画（前期計画）の推進状況」、資料No. 3-3「高校教育を巡る最近の動き」、資料No. 4「県立高等学校の入試状況の推移（全日制）」、資料No. 5「中学生の進路希望等に関するアンケート結果」に基づき説明。

(2) 後期計画策定に向けた意見交換

＜意見交換テーマ＞

都市部、中山間地・沿岸部における今後の高校のあり方について

【県教委】

- ・ 本県の高等学校教育の現状と課題を踏まえ、意見交換テーマに基づいた御意見をいただきたい。

【猿子 雫石町長】

- ・ 雫石高校については少子化の影響で定員割れが続いている。
- ・ 雫石町は交通の便を考えると都市部に分類されるかもしれないが、町の面積が約609km²と広く、雫石高校が無くなると高校への通学が困難になる地域もある。
- ・ 平成29年度に雫石高校将来ビジョン策定委員会を開催し、雫石高校の様々な支援について検討を重ねてきた。町として雫石高校の生徒確保に向けた取組を推進していく予定であり、雫石高校の魅力をも町民に情報発信していきたい。
- ・ 雫石高校には、これまで秋田県仙北市から入学する生徒がいたが、秋田県では、少子化対策

として秋田県内の高校への通学を促す取組を推進していると聞いている。

【觸澤 葛巻町副町長】

- ・ 中学校卒業予定者数が、再編計画を策定した時から後期計画終了時まで約 20%減少すると見込まれているが、再編計画では、この中学校卒業予定者数に学級数を合わせることを重視しているように感じる。この考え方を推し進めると、中学校卒業予定者数が減少していく地域からは高校がなくなってしまうことになる。
- ・ 中山間地には経済的に厳しい家庭もあり、地元の高校が無くなると教育の機会を失う生徒が生じてしまう懸念がある。
- ・ 地元の高校の存続のため、現在のままでは近隣の市町村で生徒の奪い合いになるので、後期計画では県外からの生徒の受入れ制度について強く打ち出し、発展的な再編計画としてほしい。
- ・ 葛巻町では平成 27 年度から県外から生徒を受入れる山村留学に取り組んでいるが、このような市町村の高校の存続に向けた取組を後押しする仕組みづくりを進めてほしい。
- ・ 高校教育では大学進学だけを目指すのではなく、高校の実践的な学びを通じ、地域課題に取り組む等の、地元企業や自治体と協働した将来の地域を担う人材育成に取り組むことが重要であり、そのために地域の高校の存続を望んでいる。
- ・ 葛巻高校は平成 30 年度に 1 学級減の計画であったが、入学生の増加等から学級減を延期していただいている。また、特例校に指定され、1 学級校になっても存続するとされているが、生徒のニーズに応え、きめ細やかな指導をしていくためには 2 学級規模は必要である。
- ・ 生徒減少に学級減で対応するのではなく、30 人学級の導入を検討してほしい。
- ・ 葛巻町では、公営塾や県外からの生徒受入れ可能な 30 人規模の寮を 6 月からの設置等、葛巻高校の支援に取り組んでいる。
- ・ 平成 31 年度入試に向け、全国から 22 組の家族が山村留学に興味を持ち見学にきた。実際に山村留学制度に応募した生徒は 10 人であり、その 10 人が山村留学候補生となっている。
- ・ 更なる県外生徒の受入れ人数の増加に備え、町内の旅館等での受入れ体制の準備も始めている。
- ・ 今後、山村留学に向けた取組を円滑に進めていくため、学級減の延期を単年度で判断するのではなく、当面、葛巻高校は 2 学級を維持していくという方針を示してほしい。

【高橋 矢巾町長】

- ・ 資料 No. 3-3 「高校教育を巡る最近の動き」に、学校運営協議会の設置を努力義務化するとあるが、本県の県立高校での設置状況について教えてほしい。
- ・ 3K といわれる建設・土木関係、介護関係の職場では人手不足が課題となっている。また、ILC の誘致や AI、ICT 技術の発展に対応していく必要もあるが、県教委では、どのような考えで学科を設置しているのか伺いたい。
- ・ 県内には併設型、連携型の中高一貫教育校があるが、今後は学級減により生じた空き教室を利用した中高連携も考えられるのではないかと。
- ・ 併設型の中高一貫教育校である一関第一高校附属中学校へは遠方から入学する生徒もいるため、後期計画では盛岡地域での中高一貫教育校の設置も検討すべきではないかと。

【菊池 (株) 兼平製麺所取締役総務部長】

- ・ 当社ではミャンマーから 3 年間の技能実習生を約 30 人受け入れている。震災前は 10 人の県内求人を出せば 10 人採用できる状況であったが、震災後は求人倍率が 1.5 倍になり、県内から採用するのが難しい状況に変わった。そのため、現在は外国からの技能実習生の受け入れを行っている。

- ・ 製麺所は土日や年末年始が休日ではないことで敬遠され、高卒人材の確保が難しい。
- ・ 商業高校や工業高校では大学等への進学率が上がってきていると聞いている。首都圏に進学した生徒は、県内に働きたい企業がないからという理由で地元に戻ってこない傾向があるため、若者にとって魅力ある自治体や企業づくりに取り組んでいく必要があると考えている。
- ・ 学校と地域の連携を深め、学力重視だけではなく、地域人材育成に向けた取り組みを進め、若者が地元に残る活動を推進してほしい。そのために民間企業も協力していきたいと考えている。

【嵯峨 盛岡市農業委員会会長職務代理者】

- ・ 地域連携は学校教育にとって大切であると考えている。それぞれの地域には様々な産業があり、企業等での体験学習や地域人材による講話等、地域との交流は学校の魅力づくりにつながると思う。
- ・ 生徒の学習意欲の向上に向け、地域人材を活用した取組等を高校のカリキュラムに取り入れていく必要があると思う。

【久保 葛巻町産業関係者代表】

- ・ 葛巻町の基幹産業は酪農であるが、葛巻町には酪農に携わる若者もいて、更に、その若者が経営する農場で研修する高校生も大勢いるため、魅力ある町であると感じている。
- ・ 葛巻高校には町の支援で公営塾が設置されており、地元に住んでいても大学進学を目指せる環境がある。
- ・ 山村留学にも積極的に取り組んでおり、地元の高校に通いながら県外出身の生徒との交流ができる良い環境があると思っている。
- ・ そのような環境を維持していくためにも、葛巻高校の2学級維持を強く望んでいる。

【水本 矢巾町商工会会長】

- ・ 高校再編の前提となっている少子化をいかに防止していくかを考えていく必要がある。
- ・ 学校の進路指導においては、進学率の向上、一流大学への進学者数、大企業への就職者数を教育の成果と捉える傾向があるのではないかと。
- ・ 企業合同就職説明会で進路指導を担当する先生方には、地元定着の必要性について説明し理解していただいているが、その他の先生方や保護者の方々にも理解していただく必要があると思っている。
- ・ 卒業3年後の離職率が大学卒では3割、高校卒では4割といわれるが、第2新卒者（卒業後短期間で転職を目指す者）をいかに地元呼び戻すことができるかが課題になっている。
- ・ 一度は都会に出てみたいという好奇心を止めることはできないが、Uターンを促進するためには、県外の企業を離職した卒業生の転職相談に高校が対応できる体制の確立が必要ではないかと。
- ・ 産業界としては若者から支持される魅力的な就業環境の提供を目指していきたい。

【佐々木 矢巾町建設業協議会会長】

- ・ 建設業や製造業では求人を出しても応募者が少ない状況である。新卒者が入社してこない状況があり、熟練技術者からの技術の継承が課題になってきている。
- ・ 県では次期総合計画の策定に取り組んでいるが、第1期アクションプラン（中間案）県央広域振興圏では「産学官金連携によるIT産業の育成やものづくり産業の振興に取り組みます」「地域産業の特性に応じた産業人材の確保・育成とやりがいを持って働くことができる労働環境の整備を進めます」とある。高校再編計画では職業に関する専門学科が15～17学科減（平成30

年度から平成 37 年度) と見込んでいるが、次期総合計画の目標を達成できるよう専門学科を減らさないように再編計画を再考してほしい。

- ・ 専門学科で3年間学んできた生徒は基本的な専門知識を身につけており、技術の継承には欠かせない人材であるため専門学科を減らさないようにしてほしい。

【佐藤 盛岡市PTA連合会会長】

- ・ 盛岡近郊には高校が多く設置されているが、保護者や中学生は学力中心で進路を決める傾向が強いと思う。
- ・ 工業、農業、商業高校などの専門学科では専門知識をしっかり身につけ、その後の進路につなげていく学校であるため、学力だけで判断し進路決定してほしくない。そのためには中学生までに進路の意識付けをしっかりと行い、専門高校での学習内容をしっかり理解して入学することが大切であると思う。
- ・ 保護者はできるだけ近い高校へ入学させたいという思いがあると思うが、寮等の生活環境を整えた専門高校を設置すれば、中山間地等の生徒の高校の選択肢を増やすことができるのではないかと。

【藤原 雫石町立雫石中学校PTA会長】

- ・ 資料No.5「中学生の進路希望等に関するアンケート結果」の高校での勉強や部活動をする上で4学級以上が良いと回答した割合が大幅に増加している理由について教えてほしい。
- ・ 4～6学級規模を確保したい理由として高校で社会性を身につけさせたいとの説明があったが、大きな規模の高校に入学したとしても実際の生徒間の交流は少人数である場合が多く、また、将来大企業への就職等を目指すのではなく、地元企業で働いていくことを考えると小規模校でも、ある程度の社会性を身につけることは可能であると思う。そのため、中山間地等では小規模校も、維持していくような学校づくりが必要であると思う。
- ・ 雫石高校の取組については理解しているが、他の地域と学校が連携した具体的な取り組みがあれば紹介してほしい。
- ・ 雫石町の生徒の多くは盛岡市内の高校へ入学するケースが多く、盛岡市から雫石高校へ入学する生徒は少ない。地域の人材育成を考えると、町内から盛岡市内の高校に入学した生徒に対しても地域の活動に参加できる体制を整えていく必要があるのではないかと。
- ・ 地元で学び、地域の人材を育成していくために、地元企業や自治体と連携しながら教育環境を整えていく必要があると思う。
- ・ 高校再編においては、私立高校との協議の場や協力体制の確立も必要ではないかと。

【上野 葛巻町立葛巻中学校PTA副会長】

- ・ 葛巻町の生徒が葛巻高校以外に通学するためには、公共交通機関の便が悪いため不便である。
- ・ 葛巻町では葛巻高校は高校の魅力づくりに力を入れ、町は公営塾や山村留学の寮の設置等の支援をしており、保護者としてはとてもありがたい。
- ・ 地元の中学校卒業生数は減少しているが、県外等からスノーワンダーランド（小中学生対象とした葛巻牧場での体験学習）に参加し、その縁で山村留学として葛巻高校へ入学している生徒もいる。
- ・ スノーワンダーランドでは2日間の酪農家へのホームステイがあるが、そこでは参加している子供たちと、受け入れた酪農家の子供たちの交流もあり、豊かな心の育成にもつながっていると感じている。
- ・ 中山間地では生徒減少により学びを縮小していくのではなく、教育環境確保のために2学級を維持し、都市部と同様の学ぶ環境整備に努めてほしい。

【鏑 矢巾町立矢巾北中学校PTA会長】

- ・ 資料3-2「新たな県立高等学校再編計画（前期計画）の推進状況」では学級減等を延期した高校が示されているが、学級減等を延期した理由について伺いたい。また、今後の学級減等も示されているが、この学級減等については決定したものなのか、延期もあり得るのか教えてほしい。
- ・ 矢巾町近郊の高校では盛岡第四高校が平成31年度に学級減となるため、志願をあきらめる生徒もいると聞いている。1校の学級減でも影響が大きいと感じているが、平成32年度には矢巾町近郊の多数の高校の学級減が計画されており、不安を感じている保護者や生徒がいると思う。
- ・ 中学校卒業予定者が今後減っていく状況を踏まえると、学級減をしていくこともやむを得ないと思うが、不来方高校は特色ある学系を持つ高校であり、中学生の進路希望を踏まえると特色ある学系については存続してほしい。
- ・ 例えば芸術学系等を小学校から目指して努力している子供もいると思うので、突然選択肢がなくなることがないように、余裕を持った改編等を行ってほしい。

【小山田 盛岡市教育委員会参事兼学校教育課長】

- ・ 高校再編については子供たちの進路希望に沿った形で進めていく必要がある。
- ・ 中学生のアンケート結果では4～6学級規模の高校を希望する生徒が増加しているが、一方で小規模校を望む生徒もおり、そのような生徒の希望も踏まえて考えていく必要がある。
- ・ 都市部、沿岸部、中山間地それぞれでの高校の役割があり、多様な生徒への対応や地域産業の担い手育成という視点も高校再編においては大切である。
- ・ 本県の高校教育の目的として自立した社会人の育成を掲げているが、専門人材の育成を考えると各専門学科の募集定員を同一にする必要があるのかも含めながら、1学級の定員について検討していく必要があると思う。

【若林 雫石町教育委員会教育次長兼学校教育課長】

- ・ 後期計画を策定していく上では、昭和23年の高等学校設置基準公布に伴い設置された高校と、中学校卒業生数の増加への対応で新設された高校について、整理して考えていく必要があるのではないか。
- ・ 雫石高校は公共交通の便が良い地域と悪い地域があり、都市部の高校、中山間地の高校の両方の捉え方があると思うが、雫石高校が無くなると高校へ通学が困難となる地域もあることから、高校再編と考えていく場合には、中山間地の高校として検討してほしい。
- ・ 資料No.3-1「新たな県立高等学校再編計画の概要」の高校教育の現状と課題に「特別な支援を必要としている生徒の増加」が挙げられているが、雫石高校には、そのような生徒も入学していることから、特別な支援を必要とする生徒への対応を担う高校として存続させていくことも考えられる。

【吉田 葛巻町教育委員会教育長】

- ・ 高校再編においては、小規模校だから無くしてよいということではないと思う。
- ・ 葛巻町から盛岡市内の進学校へ入学する生徒もいるが、生徒それぞれの夢を叶えるため葛巻高校に入学しており、進学や就職等様々な進路希望に対応していくためには2学級を維持していく必要がある。
- ・ 葛巻町では地方創生に取り組んでいるが、地元から若者が流出していくという流れを変えていく必要がある。

- ・ 島根県では、しまね留学等の取組を行い、年間 150 人以上の生徒が県外から入学している。
- ・ 全国的には、「地域みらい留学推進協議会」として、地方に若者を集めようとする高校、県教委、自治体等の新しい仕組みを考える動きがある。葛巻町としても、この協議会に加盟しながら葛巻町の魅力を県外に PR していきたいと考えている。（「地域みらい留学推進協議会」は県外留学進路説明会の企画・運営等を行う「地域みらい留学事業」（2019 年 2 月 1 日施行）に契約した学校及び自治体における協議の名称）
- ・ 県としても各市町村と協力しながら県外生徒の受入れ制度をつくり、地域の高校の存続について考えてほしい。

【和田 矢巾町教育委員会教育長】

- ・ 現在、学校現場では中途退学者、中学校での不登校経験者、発達障害等多様な生徒への対応に追われている。
- ・ そのような生徒にとっては、これまでの状況をよく知る地元の高校が安心して学べる高校であると思うので、小規模であっても地元の高校は大切であると思う。
- ・ 多様な生徒へ対応できる高校が必要であり、そのためには各地域に特色をもった高校を作っていく必要がある。
- ・ 県内の中学校卒業生数が減っていく中、矢巾町の生徒数は 10 年後も殆ど変わらない状況が続くため、特色ある学系が設置されている地元の不来方高校については、存続に向けた御配慮をお願いしたい。

【田山 盛岡市中学校長会会長】

- ・ 中学校の進路指導では、将来どのように生きていくかというキャリア教育に力を入れている。生涯にわたっての生き方について考えさせ、その上で高校を選択させる指導を行っている。
- ・ 各高校の特色、学習内容等の情報を伝えていくことが重要であり、どの高校でも体験入学を実施している。中学生によっては、4～5 校の体験入学に参加し、実際に自分の目で確かめた上で進路を決定している。
- ・ 今回、産業界や地域の方々の意見を伺い、今後中学校でも産業界や地域の方々の想いを生徒にもっと伝えていく必要があると感じた。
- ・ 高校再編においては生徒減少に伴い、学級減をしていかなければならない状況ではあるが、学級減になったとしても、きめ細かな教育活動の継続等、教育の質を落とさないような教員加配等サポート体制をお願いしたい。

【県教委】

- ・ 高校における学校運営協議会の設置状況についてであるが、高校での設置についてはこれから取り組んでいくものであるため、現在はまだ設置されていない。現在、各高校には地域の意見を伺う場として、学校評議委員会制度があるため、その制度も生かしながら対応していくことになると考えている。
- ・ 設置学科の考え方についてであるが、学科設置に関しては中学生の希望の他、地域の産業等も考慮し決定している。参考資料 No.5 「中学生の進路希望等に関するアンケート」に示している通り、現在の設置学科割合については、中学生の希望にほぼ近い状況である。
- ・ 中高一貫教育校の設置についての要望があったが、平成 21 年度に設置した一関第一高校附属中学校は県内のリーダー育成等を目的としたものであり、平成 31 年 3 月に一期生が四年制大学を卒業するため、その進路状況等も検証しながら検討していきたい。
- ・ 連携校としては葛巻高校、軽米高校があるが、連携校の設置については地元中学校卒業生の入学割合がある程度高いこと等が必要であると考えている。

- ・ 中学校アンケート結果において4～6学級の希望が増えた理由であるが、詳細理由については回答を求めているのでわからないが、平成27年度のアンケートでは中学校3年生の1学級を抽出して実施していたのに対し、今回のアンケートでは中学生3年生の全数を調査対象としたため、前回よりも学級数が多い都市部での中学生の回答が色濃く出たのではないかと推測している。また、現在の各学校の状況が良く分かるよう、学級数を明示した資料を添付した。
- ・ 少人数学級の導入に関する意見が出されたが、現在は1学級定員を40人として教員配置されているため、国に対して教員定数の改善について要望しているところ。現状のまま少人数学級を導入した場合、教員定数が減るため、県全体の教員配置数を減らさなければならない状況である。
- ・ 再編計画で示していた学科改編等の延期理由については、再編計画においてブロック内の中学校卒業予定者数や定員充足状況等に変化があった場合には、学科改編等の実施時期等の変更も検討することとしており、今年度延期した高校については定員充足状況等に変化があったと判断したものである。例えば水沢工業高校については、これまで定員割れが続いていたが、ほぼ定員を満たす状況になった。これは県南地域に企業進出等の影響もあると考えられることから、もう少し状況を見極めるため延期したものである。
- ・ 県外生徒の受け入れについては、昨年度から外部有識者による県外からの生徒の受け入れについて検討を重ねており、本年度8月に提言を頂いている。提言では、県内生徒の学ぶ環境を確保した上で、県外受け入れを認めるという方向性が示されており、現在制度設計に向け検討している。

【県教委】

- ・ 人材育成に関する意見として、高卒求人を出しても人材確保が難しく技術の継承に課題があるとの御意見を頂いた。地域人材育成については、高校再編のみならず、教育活動全体で取り組んでいかなければならない課題であると捉えている。
- ・ 県教委としては各高校に対して地元定着の推進について通知する等、県内就職率の向上に取り組んでいる。
- ・ 県でも「岩手で働こう推進協議会」を発足させ、官民一体となって取り組んでいる。SNSを活用し、岩手を離れても岩手とのつながりを持ち続けることができるような取組も実施し、若者が岩手に誇りと愛着を持つよう努力している。

後期計画の策定に向けた地域検討会議(第1回 盛岡ブロック②)

出席者名簿

No	市町村等	氏名	所属・役職等	備考
1	盛岡市	菊池 龍司	株式会社兼平製麺所 取締役総務部長	代理
2		嵯峨 忠志	盛岡市農業委員会 会長職務代理者	
3		佐藤 康之	盛岡市PTA連合会 会長	
4		小山田 秀次	盛岡市教育委員会 参事兼学校教育課長	代理
5	雫石町	猿子 恵久	雫石町長	
6		藤原 瑞枝	雫石町立雫石中学校PTA 会長	
7		若林 武文	雫石町教育委員会 教育次長兼学校教育課長	代理
8	葛巻町	觸澤 義美	葛巻町 副町長	代理
9		久保 淳	葛巻町産業関係者代表 (酪農)	
10		上野 勝俊	葛巻町立葛巻中学校PTA 副会長	
11		吉田 信一	葛巻町教育委員会 教育長	
12	矢巾町	高橋 昌造	矢巾町長	
13		水本 孝	矢巾町商工会 会長	
14		佐々木 和久	矢巾町建設業協議会 会長	
15		鏑 洋高	矢巾町立矢巾北中学校PTA 会長	
16		和田 修	矢巾町教育委員会 教育長	
17	地区中学校長代表	田山 英治	盛岡市中学校長会 会長 (盛岡市立米内中学校長)	

【オブザーバー】

No		氏名	所属・役職等	備考
18	県議会議員	小西 和子	岩手県議会議員	
19		斉藤 信	岩手県議会議員	
20		阿部 盛重	岩手県議会議員	
21		工藤 勝博	岩手県議会議員	
22		ハクセル美穂子	岩手県議会議員	
23		臼澤 勉	岩手県議会議員	
24	県立高等学校	川上 圭一	盛岡第一高等学校長	
25		菅原 尚志	盛岡第二高等学校長	
26		中島 新	盛岡第三高等学校長	
27		小田島 正明	盛岡第四高等学校長	
28		佐藤 一義	盛岡北高等学校長	
29		松尾 和彦	盛岡南高等学校長	
30		佐々木 和哉	不来方高等学校長	
31		小笠原 健一郎	杜陵高等学校長	
32		阿部 徹	盛岡工業高等学校長	
33		猿川 泰司	盛岡商業高等学校長	
34		上柿 剛	葛巻高等学校長	
35		小原 由紀	雫石高等学校長	
36		馬場 香樹	紫波総合高等学校長	

【県教育委員会】

No		氏名	所属・役職等	備考
37	県教育委員会事務局等	田村 忠	盛岡教育事務所長	
38		小林 満	盛岡教育事務所主任指導主事	
39		村松 雅彦	盛岡教育事務所指導主事	
40		岩井 昭	教育次長	
41		佐藤 有	学校調整課首席指導主事兼総括課長	
42		里館 文彦	学校教育課首席指導主事兼高校教育課長	
43		森田 竜平	学校調整課学校調整担当課長	
44		藤澤 良志	学校調整課高校改革課長	
45		宇夫方 聰	学校調整課高校改革担当主任指導主事	
46		梅澤 貴次	学校調整課高校改革担当主査	
47		市丸 成彦	学校調整課高校改革担当指導主事	
48		谷地 信治	学校調整課高校改革担当指導主事	